

山本組合総合病院  
小児科 科長

医師 成田 鮎子

## インフルエンザの予防



朝晩はめっきり冷え込むようになり、インフルエンザの流行期が近づいてきました。今シーズンはすでに、9月初めに秋田市の保育園でA香港型の集団発生が報告されています。その後も、散発的にA香港型の発生が報告されているようです。

インフルエンザを予防す

るためには、日頃から手洗い・うがいや、外出時のマスクの着用を行い、「うつらない・うつさない」ように心がけることも大切です。一番効果的なのは予防接種を行うことです。

インフルエンザには、A型とB型の2種類があります。ワクチンはその年に流行すると思われるウイルス株を、A型から2種類、B型から1種類を選んで作られます。今年のワクチンは、A型からは香港型と新型（3年前に流行した豚インフルエンザ）が選ばれております。今シーズンの感染報告がA香港型であることから、今年の予防接種の効果は十分に期待できると考えられます。特に重症化しやすい、1歳以上の幼児や高齢者の方々は、予防接種を受けることで感染を防御することができます。また

仮に感染しても軽症で済むため、インフルエンザ脳炎や脳症のリスクを低くすることができるところから、予防接種を受けることを強くお勧めします。



ただし、過去にインフルエンザワクチン接種後に具合が悪くなったことのある方や、重度の卵アレルギーで普段から卵を除去した食事をとっている方は、予防接種を受けられない場合があります。予防接種を受けられない場合が、かかりつけのお医者さんとよく相談しましょう。

小児の場合は、インフルエンザワクチンを3、4週間あけて2回接種するのが原則ですが、これは初回の注射で獲得した免疫をより高める「ブースター効果」を狙ったものです。1回の予防接種だけでも予防効果は得られるとされていますが、より予防効果を高めるためにも、できるだけ2回接種するようにしましょう。また、インフルエンザワクチンは注射してから、予防効果が出てくるまで約3、4週間かかります。

